

### ～論点ごとにプロジェクトを掘り下げる～

第4回目は、前回の会議で、もう少し自由な雰囲気の中かで意見交換したいという提案がなされ、委員主体による会議として開催しました。

会議は、小野寺会長の進行のもとに和やかな雰囲気の中かで進められ、これまでのAグループ、Bグループ、Cグループ毎の検討経緯を振り返り、さらに、8つの論点についてプロジェクトアイデアを出し合いました。

次回は、提言書のたたき台を基にして、加筆・修正等に関する意見交換会を行い、提言書案の骨格を整理していく予定です。

#### プログラム

日時：平成23年8月19日（金） 午後7時～午後9時30分  
場所：沼田ふれあいセンター

19:00	1 開会
	2 会長挨拶
21:30	3 全体での意見交換 ・グループの振り返りと質疑 ・8つの論点で自由な意見交換
	4 会長によるまとめ
21:30	5 閉会

## ～話し合いの概要～

### ■循環

- 復興住宅の建設は、建設関連事業者を中心に幅広い分野に影響し、雇用創出など経済への波及効果も大きい。森林組合や工務店等が連携し、新しいモデルハウスの提案やPRに力を入れるべき。
- 現在、がれき撤去の仕事はあるが、重機を動かす技術職が不足しているとのこと。人材育成が必要。

### ■道路

- 安全な生活のヒントは歴史にある。地名の由来や伝説、国道45号の原形となった気仙街道と館跡などから学べる。
- ヒト、モノ、カネを運ぶ道路は、復興を考える際の基本となるもの。今回の被災では、迂回路が無いことで地区が分断され、救急物資輸送や応急復旧等に大きく影響した。誰もが分かりやすく広い避難道路の整備が望まれる。その際、津波の走りあがりによる危険性に留意が必要。
- 道路は、山側と海側に複線化しておくことが大事。また、生活圏として道路のあり方を考えることが重要であり、学校や居住地を環状道路でつないでどうか。

### ■教育

- 震災では、「生きる力」の大事さを再認識した。お金（経済）優先の社会は限界が見えてきた。一人当たり所得額は、家族収入で比較すべきで、南三陸町は低いとはいえない。
- 昔は、嫁さんを地域ぐるみで世話した。子どもを守ることは、地域や学校を守ることにつながる。他所から若い夫婦を呼び組むことも考えたい。高学歴の人々の農村回帰志向に注目したい。

### ■ボランティア

- 全国からたくさんのボランティアが応援に来てくれたが、その受け皿が十分でなかったため、満足のいく活動ができなかった方もいたと聞く。ボランティアを受け入れる受け皿づくりが必要。基金など、使われる事業内容を明確し、結果を報告する必要がある。人もお金も受け入れる側もしっかり体制整備すべき。

### ■特区

- 法律、制度の障害（町有地利用、農地転用など）。住民が望んだようにやれる特区導入を検討すべき。

### ■産業

- これまでの湾は年齢に例えると100歳。震災後、リフレッシュした湾は40歳ぐらいに若返った。これまでとは違った利用方法も考えてはどうか。

### ■災害遺構

- 防災庁舎をメモリアルとして残すことについては、遺族感情など、町民のさまざまな思いに耳を傾けなければならない
- 東日本の中核施設として、「震災記念館」のようなものを誘致してはどうか。

### ■保健・医療・福祉

- 病院、福祉施設、役場の福祉サービスには境目がない。現場で役割を分担し、有機的に動くことが大切。

## 【その他】津波条例の制定について ～未来への遺言～

今回の震災の教訓を後世に確実に伝えていくために、津波から命や財産を守るために忘れてはならないことやすべきことなどを明記した「津波条例」の制定について提案がありました。

## 次回 震災復興町民会議の予定

日時：8月23日(火)14:00～ 場所：南三陸町役場仮庁舎会議棟